

- カメラ・マイクはオフにしてください
- 11:00に開始します
- 何かあればチャットをお願いします

TD講習

2026年2月22日(日)

競技運営委員会 審判部会

TD 制度（第 3 章 競技運営規程 テクニカルデレゲート制度規程）は、本部公認審判員の中から優れた競技会運営能力を持つ者を育成し、競技運営レベルの向上を図り、公平性と品質の担保を実現することを目的としている。

■ 対象：

- **TDをはじめとした競技会運営の中枢に関わる方**

■ ゴール：

- TD 業務の基本的な理解をした上で、スムーズな運営を実現するのに有用な情報を得ることにより、各TDが運営に関わる G3・G4を含む**さまざまな規模の競技会の運営力の向上を主導**する。

1. 新ルールの国内適用方針
2. 実践事例（大会運営の事前準備と人材確保）
3. 競技会要項に関するご案内
4. さいごに

1. 新ルールの国内適用方針
2. 実践事例（大会運営の事前準備と人材確保）
3. 競技会要項に関するご案内
4. さいごに

1. 新ルールの国内適用方針

■ 施行開始

- **2026年4月1日**より適用開始

■ 対象大会別の運用方針

- G1・G2 の競技会（国スポ、全日本等）においては、原則として新ルールを適用する。
- G3・G4 競技会における具体的な運用については、各大会主催者からの要項や方針を確認することとご案内している。

■ IOCからの要請：

ライフル競技の「ロボットのような歩き方」がスポーツの外観を損ねていると指摘を受けている。五輪競技としての存続をかけて外観やプレゼン能力を改善することが不可欠として変更を行なった。

■ 脱「技術的ドーピング」：

ウェアの「硬さ」による人工的サポートを排除し、選手の純粋な射撃スキルを重視する。

■ 経済的公平性：

常に新品の硬いウェアを買える一部の層に有利な状況を是正し、誰もが平等な条件で競える環境を作る。

■ 検査の迅速化：

選手を長時間待たせる現在の検査フローを改善し、短時間で終わる合理的な検査へ移行する。

ISSFは、今回の改訂が選手に**追加の購入コストを強いるものではなく、既存の用具の調整や変更などの簡単な修正**により、新ルールに適合させることが可能だと強調している。

■ トップ層への影響：

トップ層が競争する大会で国際基準を適用しなければ、国際大会で不利な状況に置かれてしまう。

■ 上位大会への橋渡し：

国スポ等のG1・G2大会を目指す選手のために、可能な限り新ルールに準拠した対応・指導・助言を行う。
競技会ごとにルール運用が異なると、選手のコンディション調整や用具のセッティングに多大な影響を及ぼし、パフォーマンスを阻害する恐れがある。

■ 経済的公平性：

常に新品の硬いウェアを買える一部の層に有利な状況を是正し、誰もが平等な条件で競える環境を作る。

■ 検査の迅速化：

特にG1・G2大会では事前の用具検査に時間がかかる。選手を長時間待たせる現在の検査フローを改善し、短時間で終わる合理的な検査へ移行する。

■ TD自身：

新ルール理解、判断軸の整理、競技スケジュールの再確認、リハーサルの調整等

■ 選手・コーチ向けの周知：

新ルール適用範囲、新競技時間・スケジュールの周知、新形式の説明等
積極的にワンタイムオンリーの再登録を行い、検査を効率化する

■ 競技役員向けの周知：

新ルール理解、判断軸の統一、主任・チーフクラスへの新ルール周知・教育依頼等

1. 新ルールの国内適用方針
2. 実践事例（大会運営の事前準備と人材確保）
3. 競技会要項に関するご案内
4. さいごに

2. 実践事例（大会運営の事前準備と人材確保）

大会運営の事前準備と人材確保

デフリンピック2025の経験から

日本ライフル射撃協会 事務局長 藤井 彌（わたる）

2026年2月22日

本日本お伝えしたいこと

1. 運営の事前準備
2. 人材確保
3. TDの役割

■ 複雑な大会では横棒チャートを活用

表彰式と次の射群開始の重なりが一目でわかる
複数種目出場選手のスケジュール競合を確認できる
関係者間の認識統一・合意形成のツールになる

■ G3以上、週末に詰め込む大会では検討を推奨

① 処遇を明確にする

良い悪いより「明確であること」が大事
条件を理解した上で来る方とは揉めない

② 声をかける範囲を広げる

顔が広く信頼のある方に協力を依頼する
全部自分で背負わない

③ チーフには実務のエースを配置

社会的な立場と実務能力を分けて考える
立場のある方には別の役割を用意する

- 大会が始まったら、
- TDの出番は基本的にあってはいけない

トラブル対応はジュリーの役割

TDは事前準備で勝負が決まる

ジュリーの判断を尊重し、覆さない

■ 事前準備

複雑なスケジュールは可視化する

■ 人材確保

処遇を明確に / 協力者を頼る / チーフは実務のエース

■ TDの役割

大会前に勝負は決まっている

質疑応答

皆さんの大会運営での
経験・課題をお聞かせください

人材確保・育成の実践事例

これまでのアンケートから、国内競技会の現場では「**役員の担い手不足**」「**役員の教育**」が非常に大きな課題となっていることがわかった。

■ 頭数の不足：

高齢化、若手の減少もあり役員を集められず、特に平日は若手世代の確保が極めて困難。本来重視すべき「公正で円滑な運営」や「選手への配慮」に手が回らなくなってしまう。加盟団体の収益につながる競技会を主催できなくなってしまう。

■ 育成体制の不足：

若手や役員を**育成する仕組みや機会が不足**している。
インプットした知識を実践する場がなく、**スキルが定着しない**。
高齢化が進む一方で若手が少なく、**知識や経験の継承が困難**になっている。

■ ツテの多様化：

- 近隣団体や学生と連携し役員を募集する。**定期的に声をかけ、接点を維持する。**
- 自分の知り合いだけでなく、各県やブロックで**顔が広い人に相談し、接点を拡大する。**

■ 教育体制・推進人材の設置：

- 大会前に**講習動画・資料やマニュアル**を活用し事前教育を行う。
- 事前学習だけでなく、**大会期間中にも実践とフィードバック**を行う。
- 自分一人で抱えず、大会単位では**リーダークラス**に、あるいは県単位でも**推進人材**を立て、教育や管理を任せる。



マニュアルや動画・資料の所在
会員情報＞ルール情報＞ガイドライン、講習会資料
https://www.riflesports.jp/rule_info/

教育プログラムの企画や講師派遣など、遠慮なく競技運営委員会にご相談ください。
現場の課題や実践事例もぜひ共有いただけますと幸いです。

1. 新ルールの国内適用方針
2. 実践事例（大会運営の事前準備と人材確保）
3. 競技会要項に関するご案内
4. さいごに

3. 競技会要項に関するご案内

競技会要項に関するご案内

競技運営委員会 競技企画部会

- 競技会要項のひな型
- G1 競技会の公募/
G1・G2・G3 競技会の要項提出スケジュール

競技会要項のひな型

課題

「参加資格」と「参加制限」が混在

- ・ 出場可否の判断が分かりにくい
- ・ 問い合わせが発生

書式が統一されていない

- ・ 古い様式・独自様式の使用
- ・ 記載すべき必須項目の抜け漏れが発生
(個人情報保護に関する項目など)

対策

本日の内容

参加資格と参加制限の整理

ひな形掲載先の明確化

常に最新版を使用

これまで

■参加資格/参加制限

1. 日本ライフル射撃協会の会員でインテグリティ教育を受講済みであること
2. 段位 5 段以上を有する者。ジュニア選手は 3 段以上を有する者
3. 人数枠を超えて申込みがあった場合、以下の優先順位出場者を決定する

優先順位1

日本パラ射撃連盟所属で、
同連盟の推薦を受けた者

優先順位2

最新の日ラランキング上位者

優先順位3※出場枠に残りがある場合

出場種目の 4 段を有する
日ラランキング上位者※ 5 段受験必須

参加資格と参加条件が混在しており分かりづらい

これから

■参加資格

日本ライフル射撃協会の会員でインテグリティ教育を受講済みであること

■参加条件

人数枠を超えて申込みがあった場合、以下の優先順位出場者を決定する

優先順位1

日本パラ射撃連盟所属で、
同連盟の推薦を受けた者

優先順位2

段位 5 段以上を有する者
※ジュニア選手は 3 段以上

優先順位3

最新の日ラランキング上位者

段位を保有せずともエントリーは可能

参加資格

- (参加者全員が)日本ライフル射撃協会の会員であること
- (参加者全員が)インテグリティ教育を受講済みであること
- **MIX TEAM種目は同姓、TEAM種目は異性での参加を認める**

参加制限

- 人数枠を超えて申込みがあった場合、以下の優先順位出場者を決定する
※**個人戦の得点を採用する場合、個人戦の参加制限を優先する**

優先順位1

(参加者全員が)
段位 5 段以上を有している
※ジュニア選手は 3 段以上

優先順位2

最新の日ラランキングの
チーム平均が上位のチーム

記録認定

- 日本記録(ジュニア日本記録を含む)は、以下の場合を公認対象となる
MIX TEAM : **男女1名ずつ**による合計60発の記録
TEAM : **男子3名または女子3名**による合計180発の記録

G1競技会の公募/ G1・G2・G3競技会の要項提出スケジュール

	2025年度			2026年度											
	4Q			1Q			2Q			3Q			4Q		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
G1・G2 開催計画		G1・G2 開催地公募				計画(案)策定			暫定版策定	個別調整		暫定版策定	最終調整	確定	
G1・G2・G3 要項提出	1Q 調査	エ ド 掲載		2Q 調査	エ ド 掲載		3Q 調査	エ ド 掲載		4Q 調査	エ ド 掲載				

Shootersへのイベントは先行してご登録ください。
各タイミングで、競技運営委員会よりご担当者様へご案内します。

競技会要項は指定の期日までにご送付お願いします

- 問い合わせ先 : kyogi@riflesports.jp
- 試合要項送付先 : competition_post@riflesports.jp
- 記録報告用シート送付先 : kiroku@riflesports.jp

引き続き、競技運営へのご協力をよろしくお願いします

1. 新ルールの国内適用方針
2. 実践事例（大会運営の事前準備と人材確保）
3. 競技会要項に関するご案内
4. さいごに

4. さいごに

1. 申請フォームへの登録を行ってください。

- 2026年3月31日までに事前学習を済ませ、申請フォームに登録する。
 - 資料、動画：https://www.riflesports.jp/rule_info/「ガイドライン、講習会資料」内
 - 講習後登録フォーム（試験を含む）：<https://forms.gle/dtEVmkTfwPXtZyw57>
- 新規掲載希望者は、フォーム内の試験に合格することが、TDとして名簿に記載されるための必須要件。

2. 理事会での承認後、TD名簿へ掲載されます。

3. 3年ごとの更新は、競技運営委員会の審査と理事会の承認をもって行われます。

- 積極的なご回答をお願いいたします
- 回答期限は**2026年3月31日**です



<https://forms.gle/6b3emdaG5L3mRd419>

- その他お問い合わせは競技運営委員会のメールアドレスへお願いします
kyogi@riflesports.jp

ご参加ありがとうございました